

上智大学グリークラブ OB会ニュース

2010年度 第3号

2011年2月19日発行



CONTENTS ～目次～

- ・ 会長挨拶
- ・ 4大学合同演奏報告
- ・ OB合唱団便り
- ・ 故 関口慶雄氏ご葬儀報告によせて
- ・ Dr. Tomの演奏のための音楽の解釈の一助 その3
- ・ 現役からの活動報告
- ・ Our Songs「愛唱曲集」の改訂について
- ・ ギャラリー
- ・ 広報からのお知らせ

会 長 挨拶

佐野 鑛治（昭和 39 年卒）

今年の冬は、特に厳しく、辛いのですが、そう感じるのは私だけでしょうか？歳だよ、と言われてそうですが、新しく迎えた 2011 年が会員の皆さまにとって良い年でありますようお願いしています。

新年も早 2 月も半ばになります。昨年暮れ 12 月 4 日は、日比谷公園「松本楼」にて喜寿を迎えた外山浩爾先生御夫妻をお迎えし、昭和 37 年卒の方々を中心にして有志の方々とお祝いの会が賑やかに開かれ、懐かしい先輩諸氏にお目にかかる楽しい機会を頂きました。悲しいことに、その松本楼に勤務していた関口慶雄兄（42 年卒バリトン）が病いのため 12 月 26 日に亡くなり、辛いお別れをいたしました。そして、正月 22 日に、故北村協一先生が望んでいらした、聖イグナチオ教会主聖堂でデュオーパのミサ曲演奏がミッション系四大学（関西学院、上智、同志社、立教）合同で太田務先生指揮により実現しました。4 大学合同演奏会マネージャーを始め、田中先輩、中尾・上田ディレクターの多大なご尽力によりますが、総勢 120 名ほどの演奏でした。新納名誉会長は最高齢、また、最も遠くから参加したのは重田先輩（37 年卒トップ山口市）だと思います。演奏後、退場の列から離れ、最前列で聴いて下さったピタウ大司教にお礼のあいさつに伺いました。ピタウ大司教は立ち上がり、私の手を強く握りしめ、「良かったです！わたくしは、涙が出るほど感動しました。みなさんにありがとうと、伝えてください。」と言ってくださいました。よかったです！

近藤（34 年卒）大坪、石野、吉野（35 年卒）今岡、小林（直）（37 年卒）沓澤、宮島（38 年卒）先輩諸氏が会場整備にご協力くださり、今後、これを機会に多数のグリーOB が合唱活動に参加して下さることを期待しています。

ホッとする間もなく、この 7 月に第一回のグリークラブ OB 合唱団定期演奏会への準備が始動しています。合唱団幹部は練習時間が足りないと危惧していますが、四大学合同演奏をまとめた指揮者太田務先生と団内指揮者の篠崎新一氏が居て下さるので、きっと、厳しく、より高いレベルの音楽へ引っ張って行って下さることになるでしょう。

最後になりましたが、四大学合同演奏会のお礼の挨拶に山岡理事をお訪ねした折、山岡理事は、招待席に入らず、満席の会衆の反応をお知りになるため後部座席で聴いてくださったそうですが、「このような、主聖堂での合唱演奏の機会を増やしていきましょう。大学創立 100 年記念音楽会の企画を遅くともこの 11 月までに具体的提案をしてください」と言っていただきました。

現役グリーの役員が、この春は新入部員獲得で、部員倍増 30 名超体制を目指すそうです。

しっかり応援してまいります。

報告 北村協一メモリアル 関西学院・上智・同志社・立教 OB 合唱団合同演奏会

聖イグナチオ教会 主聖堂 にて好評裡に終わる！

4 大学合同演奏会マネージャー 中尾 照夫（昭和 44 年卒）

2011 年 1 月 22 日（土）北村先生が永年切望されていた聖イグナチオ教会主聖堂での Albert Duhaupas 作曲『MESSE SOLENNELLE』の演奏が、太田先生指揮、4 大学の OB 合唱団合同で実現し

ました。

当日は1月下旬の厳寒期にもかかわらず、陽ざしがあたたかい一日で、来場者も多く、700席ある主聖堂が満席で立っていただくお客様が出る盛況でした。ピタウ大司教はじめ教会ならびに大学関係の方々も多数ご来聴いただきました。

新月会（関学グリーOB）、上智グリーOB、同志社グリーOB、立教グリーOB 男声の順に、各校の校歌と愛唱歌を1曲ずつ演奏しました。新月会は、校歌『Old Kwansei』と多田武彦作曲組曲『航海詩集』から『わが窓に』を、同志社は、『Doshisha College Song』と『詩篇 98』を、立教は、校歌『St. Pauls will shine tonight』と多田武彦作曲組曲『雨』から『雨の日に見る』を演奏し、我々は、『校歌』とメンデルスゾーン作曲『Beati mortui』を演奏しましたが、各校それぞれの持ち味が出て好評でした。

各校の演奏の後、4校合同で Aibert Duhaupas 作曲『MESSE SOLENNELLE』から『Kyrie』『Gloria』『Agnus Dei』の3曲を、太田務先生の指揮で演奏しました。ご来場いただいた皆様にも男声合唱の良さを十分鑑賞いただけたものと思います。元東芝EMIプロデューサーの伊藤令子女史は、「低音が床を這ってくる、高音は後方から響いてくる、ミサ曲を演奏するには特別の音場ですね、素晴らしかった。」と言われておりました。こうした音場が北村先生が主聖堂でミサ曲を演奏したいと言いつづけておられた理由の一つかも知れません。合同演奏は総勢118名で、北村先生への想いを共有できた瞬間でした。最後にアンコールとして『遥かな友に』を演奏して4大学合同演奏会を終了しました。

翌週、佐野会長と大学ならびに教会関係のしかるべき方々にお礼に伺いましたが、皆さん一様に喜んでおられました。S Jハウスにピタウ大司教をおたずねしましたが、ご本人はおられず、事務の方が、演奏会当日は大変感動されたようで興奮おさまらず、お部屋に入られたあとすぐまた下りてこられて、今日は良かった、感動したといつまでも言われていたそうです。後日、別掲のように、ピタウ大司教から、4大学OB合唱団各団あてにお礼状をいただきました。

本番当日は、大学の期末試験直前で現役部員の協力は難しいため、OB諸兄に受付や会場整理などのお手伝いをお願いしましたところ、多くの大先輩やOB、ご家族にご協力いただきました。あらためてお礼申し上げます。佐野会長の挨拶文の先輩のほか、待井君（平成4年卒）、下山君（平成9年卒）、山本修司君奥様、そして佐野会長のお知り合いお二方までお力添えいただきました。ありがとうございました。

来年1月15日には、4大学合同の仕上げ、『北村協一メモリアルコンサート MISSION』が予定されています。合同演奏はDuhaupasの荘厳ミサ曲全曲演奏です。その他の詳細は今後決定次第お知らせいたします。半世紀に1回出来るかどうかの全曲演奏です。多くのOB諸兄にご参加いただきたく思います。

演奏会終了時、ご来場いただいた皆様に教会への献金をお願いいたしましたところ、多額の献金をいただきました。佐野会長と一緒に、教会へお渡しし大変感謝されましたことをお伝えいたします。ご協力いただきました皆様にあらためてお礼申し上げます。

一つだけ残念なことは、関口慶雄兄（旧姓 笠井）がご一緒できなかったことです。関口さんはOB合唱団設立前からご協力いただき、設立後は副代表としてご尽力いただきました。とりわけ、4大学合同演奏には熱意をみせられ、11月7日の第1回合同練習にお見えになりましたが、お顔を見せていただいたのはそれが最後になってしまいました。聖イグナチオ教会での本番には

一緒に乗りたいと意欲をみせておられました。ご無念であったことと思います。末筆ながらご冥福をお祈りいたします。



上智大学グリークラブ OB 合唱団の皆様へ

+ 主の平安

去る1月22日に行われました、イグナチオ教会での四大学 OB 合唱団合同演奏会は私にカトリック教会と美について考える機会を与えて下さいました。カトリック教会と美との関係はイエズス様が教会を造られた直ぐ後のローマ時代から広がり、教会建築、祭服、祭具、典礼、教会の祭儀等、この二千年余の間に優れた美を残してきました。

イエズス様は神でありながら人間になった、人間はイエズス様を信じることで、自らの力を発揮し、美を造り、神様に近付きました。

ローマで長いこと住み、また全世界の教会や美術館を訪ねた時に、カトリック教会と美の歴史が如何に深く関係しているかを知り、キリスト教が及ぼした多大な影響を感じ取れたことは私の宝物となっています。

22日のコンサートでも美的な感動ばかりではなく、神様により近くなったという神秘的な体験をすることが出来ました。私が感じましたこの喜びを皆様のご尽力で長く伝統として続けていただけましたら有難いです。

感謝と祈りのうちに

2011年1月30日

+ Joseph Pittau, S.J.

ヨゼフ・ピタウ

OB 合唱団便り

OB 合唱団代表 泉 洋 (昭和 40 年卒)

OB 合唱団 副代表 関口慶雄さん (昭和 42 年卒) のご逝去を悼む!

年末も押し迫った12月26日、関口 (旧姓 笠井) さんの訃報が届いた。7月頃から体調を

崩され入退院を繰り返していたが、あっという間に帰らぬ人となってしまった。

現役時代は北村先生の指導を受けながら学生指揮者として活躍。昨夏まで勤務していた「日比谷 松本楼」ではグリークラブ OB 会や現役が幾度となく大変お世話になった。

曲がったことの大嫌いな、誠実な人柄とグリークラブへの熱い思いを抱いていた彼は、OB 合唱団創立当初より副代表として活躍いただき、貴重な大切な存在であっただけに残念でならない。生前、彼は7月に予定されている OB 合唱団の第1回定期演奏会と来年1月の4大学合同演奏会の成否を殊の外心配していた。

残された我々は是非ともこれを成功させ、素晴らしい合唱を彼に届けなければならないと思っている。OB 合唱団発展のためにご尽力いただきありがとうございます。どうぞ安らかに眠り下さい。

OB 合唱団第1回定期演奏会と

4大学 OB 合唱団合同演奏会（北村協一メモリアルコンサートMISSION）

2009年に発足した、当 OB 合唱団の初めての演奏会と4大学 OB 合唱団による合同演奏会を、それぞれ下記のとおり開催します。OB 合唱団は現在40名強のメンバーで練習に励んでおります。さらに一人でも多くのOB諸兄に参加をいただきたく、団員一同心からお待ちしております。

《OB 合唱団第1回定期演奏会》

日 時： 2011年7月24日（日）開演14時（予定）
場 所： 杉並公会堂（大ホール）
演奏曲目： ☆宗教曲集から『Beati Mortui』メンデルスゾーン作曲 他
☆トスティ歌曲集から『Ideale』 他 ピアノ伴奏 久邇先生
☆男声合唱組曲『人間の歌』多田武彦 作曲
指 揮： 太田 務 篠崎新一
賛助出演： 上智大学女声OG合唱団

《北村協一メモリアルコンサートMISSION》

日 時： 2012年1月15日（日） マチネー
場 所： すみだトリフォニーホール（大ホール）
演奏曲目： Albert Duhaupas 作曲 『MESSE SOLENNELLE』 全曲 他
関西学院、上智、同志社、立教のOB合唱団による合同演奏
指 揮： 太田 務 各校団内指揮者

故 関口慶雄氏ご葬儀報告によせて

OB ライフ委員長 田中立夫（昭和35年卒）

昨年12月26日急逝された故関口氏（42年卒）のお葬式は28日お通夜、29日告別式がしめやかに執り行われ両日合計60余名のOBが参列。

ご遺族のご希望により告別式にて30数人が『遙かな友へ』『Beati Morutui』を献歌、出棺の際は校歌で永久の別れを惜しみました。

上智大学グリークラブ同期OB、合唱団有志が弔意の生花一对を祭壇にお供えしました。

その参加者には別紙にて会計報告など詳細をお知らせいたします。

悲しい出来事はあつてはなりません、多くの OB 諸兄を見送ったことは紛れもない事実、命あるものはいつかは迎えなければならないこの世との別れに際し友人、仲間が出来ることは何かを考え続けてきました。

皆さんご自身を取り巻く方々の消息を常に把握し万が一の時にはその情報をタイムリーにお知らせください。

OB ライフ委員がお役に立つこともあろうかと思えます。

Dr. Tom の

演奏のための音楽の解釈の一助

その3 ～現代音楽～

これまでの2回でルネサンスとロマン派の合唱曲について書きましたが、今回は現代音楽について述べ、シサスクの *Miserere mei, Deus* とチョピの *Totus Tuus* の位置とアプローチについて書いてみようと思います。

現代音楽における音楽的表現方法は、ロマン派までのそれと比べると、多岐にわたっています。勿論各々の時代に avant-garde (前衛派) はいましたが、中心を行く大きな流れがその時代の音楽様式を支配していました。しかし、現代音楽はいわゆる「何でもあり」と言えるもので、印象主義派、表現主義派、新古典派、新ロマン派、民族主義派、前衛派、折衷主義派等、様々な立場に基づき作品が生まれています。

印象派は、その時代の画家や詩人が求めた芸術表現、即ち物事の正確で輪郭のはっきりした模写や表現を避け、その瞬間の印象を掴もうとすることに腐心しました。ドビュッシー (1862-1918) やラヴェル (1875-1937) などは強くそれらの影響を受けた作曲家です。

フランスで活発だった印象派の「ぼやけ」に対するリアクションとして 1910 年ごろドイツで発生したのが表現主義です。絵画においては作家の、無意識の中の多くの思考をキャンヴァスの上に表現する努力がにじみ出ています。心の奥底の自我を出す歪んだイメージが、それまでの伝統的美の表現に取って代わりました。音楽的には常に持続する強烈さ、不協和音の多用、ぎこちない旋律、複雑なリズム、変動するテンポ等が特徴です。新ウィーン学派のシェーンベルク (1875-1951)、ベルク (1885-1935)、ヴェーベルン (1883-1945) が代表的作曲家です。

第一次大戦以降に現れた新古典派の求めた音楽表現は感情的なものよりも、作曲技能の熟練を求めた 18 世紀の作曲姿勢をもう一度呼び起こすものでした。ロマン派時代の過度期であった感情表現と古典派の形式美の適度なバランスを修復する事だったのです。ストラヴィンスキー (1882-1971)、ヒンデミット (1895-1963)、プーランク (1899-1963)、ブリテン (1913-1976) がこのカテゴリーに属する作曲家です。

20 世紀の全ての作曲家が 19 世紀ロマン派音楽を否定的に見て、上記の派に属したわけではありません。中にはロマン主義者の概念に密接した表現手段を用いた作曲家もいる事を忘れてはいけません。この新ロマン派の音楽は、音色的に豊かでクライマックスが頻繁に来て、他の派の作

品に比べると、音楽に携わらない一般の人にも理解しやすく、表情に富み暖かいものとなっています。オルフ (1895-1982)、バーバー (1910-1980)、メノッティ (1911-2003) の作品にこの傾向が見られます。

19 世紀まではヨーロッパの主要国が音楽のメイン・ストリームを走っていましたが、20 世紀に入り、地方国々の民族音楽の要素を作品に取り入れ始める動きが出始めました。コダーイ (1882-1967)、ヴォン・ウィリアムス (1872-1958)、コーブランド (1900-1990) やヴィラ・ロボス (1887-1959) ら民族主義派が自国の民族音楽を巧みに活用し、素晴らしい作品を残しています。以上が 20 世紀に入ってから音楽の主なグループ分けです。

さて、それでは先ずシサスクの *Miserere mei, Deus* を解析して見ましょう。テキストの出典は旧約聖書詩篇 50 篇のダヴィデの懺悔詩です。曲は大きく 3 つのセクションに分けられ、中間部が長いフーガになっています。イントロとクローズングはホモフォニックなセッティングです。イントロの短い 8 小節の中に p から ff までのダイナミクスの幅を持たせています。ハーモニック・シフトも e → gis → A → cis → D → fis → Cis と、まるでダヴィデの苦悩を模写しているが如くさまよい、かなり感情的な作りです。この作品の中心部はフーガです。フーガの大きな特徴は同じ旋律が複数の声部で順次繰り返して現れる事です。典型的なカノンは同じ旋律を繰り返すだけですが、フーガにおいては、先ずあるパートがテーマを提示 (m. 9~14) します。ここではバスが Fis の上に作られたエオリア旋法 (移動ドで読むとラシドレミファ) でテーマを歌い、別の声部 (バリトン) が 5 度上の Cis でその旋律を歌い始めます。バリトンの提示 (m. 15~20) の終わった直後にセカンドテノールが更に 5 度上の Gis から旋律を始めます (m. 21~26)。典型的フーガでは 3 番目のパートの旋律は 1 番目のものに戻りますが、第 2 パートが忠実にもとになる旋律を完全 5 度上から始めるので、第 3 パートへのバトンタッチも完全 5 度上となった訳です。m. 27 から 35 までのトップが入ってくるまでの間にシサスクはバスに完全 5 度上昇する短い旋律の反復を与えます (m. 27~31)。彼は *Deus secundum magnam misericordiam* (神よ、大いなる慈しみにより) でホモフォニックとし、テキストを主張させる事により曲を引き締めています。トップテノールの旋律の提示 (m. 36~41) の直後にバスとバリトン (m. 42~) とバリトンとトップ (m. 46~) に追迫部 (ストレッタと呼ばれる旋律が間隔を置かず次々に現れるもの) に似た部分を配置し、最終的に *misericordiam tuam* (あなたの慈しみ) をホモフォニックな作りで主張しています。この曲のアプローチとして、テキストの内容から声の質は暗めで深くする必要があります。中間部のフーガの歌い方のコツは、まずテーマはどのパートもしっかり響かせ主張し、他のパートがテーマを歌い始めると響きを緩め、かつそのパートに寄り添う歌い方が大切です。そしていつもラテン語のアクセントの存在を忘れないようにしましょう。

チョピの *Totus tuus* はシサスクの *Miserere mei, Deus* と異なり基本的にホモフォニックに曲は進んでいきます。ホモフォニックな曲の強みはポリフォニックな曲に比べるとテキストによる内容の提示がはっきり出来る事と、同時にハーモニーにより更にその内容を強く印象付ける事が可能である事です。大まかに A B A の形式を取り、中間部は表情の豊かでダイナミックな作風を見せ、メリハリを利かせています。曲の始めに *Calmo, religioso* (静かに、敬虔に) と示されていますが、ハーモニーも 7th 等がふんだんに使われ豊かさを増していますので、感情も豊かに歌われるべきと思います。*Calmo, religioso* も単なる静寂な敬虔さではなく、母親を慕う幼子のような純真でかつ熱意のある心からの歌声が必要です。繊細なハーモニーを聴かせるために、先ずハモリの 4 つの要素 (ピッチ・トーン・ヴォリューム・タイミング) に集中しましよ

う。バスパートの音色（トーン）は m. 15 まではテノール系に近い軽めのものを、m. 16 からメソソフが速くなるので、軽さを保たないと前に進みにくくなります。しかし m. 34 から 42 までの Grandioso ではどのパートもしっかり声を響かせて「雄大に」歌いあげましょう。M. 43~48 のつなぎの部分からハーモニー優先の歌い方です。最後の 4 小節（Maria）ですが、D のオクターブのユニゾン（Ma-）から G-dur のハーモニー（ri-a）をかつちり鳴らすためには、ユニゾンの D の音はすでに G-dur の第五音を意識し、最後の G-dur におけるセカンドの H の音は音色的に D の音に近いと良いでしょう。この最後の部分で演奏する団体のハーモニーに対する感覚の善し悪しがはっきり現れます。

さて、この 2 曲に対する簡潔なアプローチを示しました。最後にこれらの曲が音楽史的にどの分野に入るかを考えてみましょう。シサスクの *Miserere mei, Deus* はフーガと言うクラシカルなテクニックを使った、テンポがほぼ一定で、ある程度「形式」を重ねたもので、新古典派に属するような作品です。一方、あまり形式にとらわれず、テンポも変わりかつ表情の豊かなチョピの *Tous tuus* は新ロマン派に当てはまるものと考えられます。

曲の作風と内容を正しく理解する事は、その音楽が求める演奏をするために重要な事です。ただ単に書かれた音を歌うのではなく、書かれた音と音の間を如何に埋めてゆくかを常に考えた演奏をしたいものです。

Doctor of Musical Arts in Choral Conducting and Literature

太田 務

現役からの活動報告

上智大学グリークラブ部長 三浦周平（経営 2 年）

OB 会の皆様こんにちは。2 月 1 日付で新部長になりました三浦です。歴代部長に比べ至らない点が多々あると思いますが、1 年間よろしくお願ひします。

第 62 回定期演奏会では、現役からの出演依頼を快く引き受けてくださった OB 合唱団をはじめ、多くの OB の方々にご支援をいただきました。おかげさまで大成功の中に終えることができました。前部長の荒木に代わり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、現在現役は大学の入学試験のため、基本的には 2 月中の活動を休止しています。そのため今回は今後の活動予定を中心にお知らせいたします。

【来年度の行事】

2011 年度の現役の行事予定が以下のように確定しました。

2 月	春合宿
4 月	フレッシュマンウィーク（新入生勧誘期間）
5 月	紀尾井の森コンサート
8 月	夏合宿

- 10月 音楽祭
11～12月 定期演奏会

定期演奏会はまだ会場が確保できていないため具体的な日程を決めることができていませんが会場、日程が決まり次第お知らせ致します。

前年度と異なる点として、今回新たに春合宿を行うことにしました。この合宿では歌の練習は行わず、来年度のイベント準備（各演奏会で演奏する曲目の決定、フレマンの準備など）を行います。まずは1年間の土台作りです。

【フレッシュマンウィーク】

来年度のフレッシュマンウィークは4月11日（月）～13日（水）の3日間で行われます。新入生に対する直接的な勧誘はこの期間以外認められていないので、この期間中にどれだけ多く新入生と接するかが勝負です。新入生が入団するにはグリーの活動を知り、興味を持ってもらうことが重要です。2～3月はそのためのきっかけを、フレマン担当の中野を中心に多く準備していきます。

現役からの活動報告は以上でございます。OB 会の皆様にはこれからもご支援の方、よろしくお願い申し上げます。

Our Songs「愛唱曲集」の改訂について

OB 合唱団音楽ディレクター 中尾照夫（昭和44年卒）

もともと「Our Songs」については、故北村先生が早くから作成の意見を述べておられました。なかなか実現できずにいたものを1970年代後半から1980年代前半にかけて第1版が編纂されました。その後1987年、1995年と改訂を重ねてきたものの、団員数の減少を主要因にその後の改訂は実現できていません。最後の改訂である1995年以来15年を経過し、団員数の回復傾向とOB合唱団の本格化さらに創部60周年をひかえて、全面的に見直し改訂版の編纂を実行することといたしました。

現在の版までの3版に収録されている曲目は別紙の通りです。本来愛唱曲集は代々にわたって歌い継がれて淘汰されたものの集大成であると思いますが、大学の部活動という側面から、また永い年月により、同じクラブでも世代によって愛唱曲は変化していくものでもあります。因みに関学グリーも永年にわたり改訂を続けているようですが、世代によって曲が入れ替わり、当初数百ページにおよぶハードカバーの分厚い曲集であったものが、現在はその頃からくらべれば大分薄くなっているようです。（第3版は130ページ55曲収録）

以上のような性格から、本来は周期的に一定年数の経過ごとに改訂すべきものと思われます。とは言え、世代を超えて不変の愛唱曲もありますので、今回の改訂は可能なかぎり上智大学グリークラブの定番中の定番曲の集成を目指したいと考えます。

かかる主旨から現役はもとより、多くの OB のご希望・ご意見を反映したものにすべく、各位に愛唱歌アンケートをお願いして編纂のベースにしたいと思っております。

改訂版発行時期は60周年を期して改訂発行する前提としたいと思っておりますが、準備が整い次第発行する予定であります。

<編集委員について>

OB 合唱団の音楽委員会が主体となって推進いたします。必要に応じてメンバーを追加したいと考えますが、編集委員に参加ご希望の方は、中尾までご一報ください。

さらに現役1~2名の参加をお願いする予定です。

<アンケートについて>

以下を参照してアンケートにご協力ください。

- ① 添付した「Our Songs 曲目整理表」の収録曲から掲載を希望する曲を選んでください。曲名の左空欄に○をお願いします。
- ② さらに他に掲載を希望する曲がある場合は、アンケート回答用紙に記入してください。アンケート回答用紙の記入要領を参照してください。
- ③ あわせてご意見・ご要望等があれば該当欄に記入してください。
- ④ ご記入いただいた「アンケート回答用紙」と、「Our Songs 曲目整理表」を返信用封筒に入れ返送願います。それぞれの用紙に記入がない場合は返送いただかなくて結構です。またお名前の記入が漏れていないか確認してください。

回答期限 2011年3月31日(木)

<資料ならびに添付書類>

1. Our Songs 従来収録曲明細
2. Our Songs 曲目整理表 (4. とともに返送ください)
3. 参考 「Old Kwansei 関学グリー愛唱歌集」
4. 愛唱歌集「Our Songs」収録曲アンケート回答用紙 (2. とともに返送ください)
2. と4. は別紙です。

★ なお、メールご利用の方は、別途 OB 会へご登録いただいたアドレス宛同様の内容でメール発信いたします。メールに返信いただければ幸甚です。郵送費用節減の観点からもメール利用をお願いいたします。

また、アンケートでご希望いただいた曲が必ずしも掲載されるとは限りません。アンケート結果を、編集委員を中心に協議検討して掲載曲を選定してまいります。ご承知ください。

Our Songs 従来収録曲明細

No	曲名	グレー版	1985版	1987版	1995版	備考	関学収録
1	上智大学校歌	○	○1	○1	○1		
2	LIED DER SOPHIA UNIVERSITAT	○				ドイツ語版	
3	GAUDEAMUS	○	○5	○20	○20		○
4	秋のピエロ	○		○45	○34	清水脩月光とピエロ	
5	I'VE BEEN WORKIN' ON DE RAILROAD	○				アメリカ民謡	
6	乾杯の歌(ドイツ民謡)	○	○10			ドイツ民謡	
7	雨の日に見る	○				多田武彦「雨」	
8	いざ起て戦人よ	○	○3	○18	○14		
9	U BOJ	○	○4	○27	○16		○
10	最上川舟唄	○	○8	○29	○22	山形県民謡	○
11	Ride the Chariot	○	○9	○8	○8	黒人霊歌	○
12	涙君さよなら	○			○30	ポピュラー	
13	君といつまでも	○	○18	○41	○32	ポピュラー	
14	TRINKLIED	○	○24	○26	○17	シュベルト	
15	早春	○				多田武彦「父のいる庭」	
16	DAS LIED わが歌	○	○2	○17			
17	年の別れ	○	○15	○36		多田武彦「人間の歌」	
18	Ständchen	○	○22	○28	○21	マルシュネル	○
19	TREUE LIEBE	○					
20	斎太郎節	○	○14	○30	○23	宮城県民謡	○
21	遥かな友に	○	○20	○43	○29		○
22	SCABOROUGH FAIR	○					
23	NANZAN MALE CHOIR SONG	○	○23	○2	○2		
24	上智大学学生歌	○	○19	○3	○3		
25	夜のうた	○	○17	○44			
26	作品第肆(富士山かわづらに)		○6	○35	○28	多田武彦「富士山」	
27	森の歌声		○7	○19	○15	アメリカ学生歌	
28	雨		○11	○34	○25	多田武彦「雨」	
29	When you wish upon a star'		○12	○12		細田裕一&山本修二編曲	
30	見上げてごらん夜の星を		○13	○40	○31	ポピュラー	○
31	I'v got Six Pence		○16		○7	Sea Chanty	
32	Freie Kunst 自由の歌		○21	○25	○18		
33	What Shall We Do With The Drunken Sailor			○4	○4	Sea Chanty	
34	Whup! Jamboree			○5		Sea Chanty	
35	Sailing, Sailing			○6	○5	Sea Chanty	○
36	High Barbary			○7	○6	Traditional Yale Glee	
37	Ev'ry Time I Feel the Spirit			○9	○8	黒人霊歌	○
38	Soon Ah Will Be Done			○10	○9	黒人霊歌	○
39	Ain'a That Good News			○11	○10	黒人霊歌	○
40	Yesterday			○13		ビートルズナンバー	市原聡編曲
41	Yesterday, Once More			○14			市原聡編曲
42	Ave Maria			○15		アルカデルト	市原聡編曲
43	White Christmas			○16			木村元編曲
44	オレーグ公の歌			○21		ロシア民謡	
45	Wiegenlied-Lullaby			○22		ブラームス	
46	Lore-Ley			○23	○19	ジルヘル	
47	Vive L' Amur			○24		Traditional	ロバート・ショー ○
48	たいしめ(鯛締)			○31		三木稔	
49	鶯のうへ			○32		多田武彦「わがふるき日のうた」	
50	郷愁			○33		同上	
51	月の光			○37		多田武彦「中原中也の詩・・・」	
52	砂上			○38	○26	多田武彦「海に寄せる歌」	
53	上を向いて歩こう			○39	○33	ポピュラー	北村協一編曲 ○
54	バラが咲いた			○42		ポピュラー	市原聡編曲
55	心ゆたかに サウンドマインド、サウンドボディ			○46	○35	大島ミチル	作曲者贈呈
56	Set down Servant				○11	黒人霊歌	○
57	Good Night Ladies				○12		
58	Oh! Susanna				○13	フォスター	
59	雨の来る前				○24	多田武彦「雨」	
60	渡り鳥				○27	多田武彦「水墨集」	

合計 収録曲数/総ページ数

25/48 24/50 46/128 35/108

15/55

1985年版以降の○の後の数字は収録順番を示す。各版とも「校歌」が1番最初に収録されている。

参考

Old Kwansei 関学グリー愛唱曲集

2010.3.20
third edition
新月会発行

< 関西学院の歌 >

6曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
Old Kwansei	C.A.Langlotz	林 雄 一 郎
空 の 翼	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎
A Song for Kwansei	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎
緑 濃 き 甲 山	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎
新月旗のもとに	石 田 清 和 喜	北 村 協 一
関西学院逍遥歌	林 雄 一 郎	

< 宗教曲 >

8曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
The Lord is my Shepherd	R.Bridgman	
PSALM98 詩篇 9 8		平 田 甫
Requiem Aeternam	P.Cornelius	
Zum Sanctus	Deutsche Messe	F.Schubert
God be with you till we meet again	神ともにいまして	W.G.Tomer
Agnus Dei	C.Gounod	
Song of Soldier	J.McGranahan	
Be Still, My Soul	J.Sibelius	M.Andrew

< Christmas Songs >

5曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
Joy To The World	The Messiah	L.Mason
O Holy Night	A.Adam	
Adeste Fideles	Traditional	
Silent Night, Holy Night	F.Gruber	
Jingle Bells	J.Pierpont	

< Spirituals >

9曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
Swing Low, Sweet Chariot		L.de Paur
Ain'-a That Good News!		W.L.Dawson
Ride the Chariot		W.H.Smith
Deep River		H.T.Burleigh
Ev'ry Time I Feel the Spirit		W.L.Dawson
Soon Ah Will Be Done		W.L.Dawson
Set Down Servant		Robert Shaw
Were You There?		H.T.Burleigh
Swing Down, Chariot		M.Huff

< 日本民謡 >

5曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
そうらん節	北海道民謡	清 水 脩
斎太郎節	宮城県民謡	竹 花 秀 昭
最上川舟唄	山形県民謡	清 水 脩
竹田の子守唄	京都竹田地方	林 雄 一 郎
広島船頭唄	広島地方民謡	北 村 協 一

< Sea Shanties >

4曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
Sailing, Sailing		Roger Wagner
Shenandoah		M.Bartholomew
Rolling Home		北 村 協 一
Haul Away, Joe		Robert Shaw

< 愛唱歌(外国) >

8曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
GAUDEAMUS		北 村 協 一
Love's Old Sweet Song		Robert Shaw
Vive L'Amur		Robert Shaw
Stäntchen	閨窓夜曲	A.E.Marschner
Heidenröslein	野ばらの花	
Die Nacht	F.Schubert	
Auld Lang Syne	Robert Burns	Don Gray
Irish Blessing		Don Gray

< 愛唱歌(日本) >

8曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
遥かな友に	磯部 俣	林 雄 一 郎
故郷	尋常小学校唱歌	林 雄 一 郎
見上げてごらん夜の星を	いずみたく	
上を向いて歩こう	中村 八大	北 村 協 一
君といつまでも	団 厚 作	小 池 義 郎
からたちの花	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎
この道	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎
赤とんぼ	山 田 耕 筈	林 雄 一 郎

< U Boj ! >

2曲

曲名	組曲名・作曲	作曲・編曲
U BOJ !	Ivan pl. Zajc	
U Boj !	関学グリー伝承曲	

合計収録曲数55曲 内関学関係6曲 その他49曲

総ページ数130ページ(表紙除く)

頒価 3000円

ギャラリー



第 62 回定期演奏会リハーサル中の現役生と OB
(・・・本番の写真は撮れませんでした)



こちらは現役生単独でリハーサル

年が明けて 4 大学合同演奏会



いつも名解説の中尾副会長



イグナチオ教会と
上智大学 7 号館



かけつけてくださったお手伝い
の方々と一緒に

広報からのお知らせ

上智大学グリークラブOB会会報のバックナンバーが 2004 年度以降分につきまして当会のホームページに掲載されております。カラー版で掲載していますので写真等はさらに楽しくご覧になることができると思います。その他いろいろとお知らせもごございますので是非ご覧ください。

上智大学グリークラブホームページ

<http://www.sophia-gee.com/>

また、現役及びOB対象のメーリングリストを運営中です。メーリングリストに登録希望の方は、卒年・お名前・登録アドレスを明記の上、以下のアドレスにご返信ください。

上智大学グリークラブOB、現役部員対象のメーリングリスト

info@sophia-gee.com

※OB会では近い将来ニュース等、広報のペーパーレス化を考えております。会員の皆様にはその是非についてメーリングリスト、または田中立夫（S. 35 卒）（tanaka@aoyoko.ch）までご意見をお寄せいただきたく存じます。よろしくお願い致します。

（編集） 広報 小倉 充朗（平成8年卒）